

南阿蘇

先月末に双子の男児を無事出産。元気な赤ちゃんの誕生で大きな喜びに満ちあふれた。ところがそれもつかの間、退院と同時に大変な育児生活が始まった。やっと一人が寝付いたと思ったら、もう一人がぐずりだす。しかも時間などお構いなく。お乳は二倍、おしめも二倍。体力だけには自信のある私もさすがに疲れ気味。だけど二つ並んだ寝顔を見ると、どこからか力がわいてくるものだ。

今年に入ってからのが家は牛の子も二頭生まれ、「ベビラッシュ」。わが家のあか牛たちは一年のほとんどを放牧場で過ごすためか、健康で安産が多い。今回も自力で元気な子牛を生んでくれた。人間同様十カ月間おなかに入っていた牛の子たちは、生後まもなく自力で立ち上がり、自ら乳に吸い付く。人間の子もせめてあれくらい育ってから出てきてくれればいいのになあ。

ところで、農家にとって牛は立

大津 愛梨

里の風

祝・安産



絵・有働 孝昭

派な「資産」である。その資産価値は機械や家屋と同様、年を追うごとに下がっていく。メス牛の場合、価値が最も高いのは初産の妊娠中。子牛を生んだその瞬間から減価償却が始まるのだ。出産した

ら価値が減っていくなんて、失礼な。子育てをするこれだから、母として大いに価値が上がるのに！単なる税制上の話とはいえ、牛の身になってそんな主張をしていたら、「メスはまたよかよ。オス

牛なんて、ほとんどが去勢されて肉になるとだけ、男はツライよ」と夫。オス牛はほんの一部の超エリートだけが種牛として残り、あとは肉質を軟らかくするため、子牛のうち去勢されるのだ。つまり、私たちが口にする肉のほとんどはニューハーフの肉か、子牛を生まなくなった熟女の肉。ご存じでしたか？

さて、双子の育児は二倍大変だけど、幸せは二倍以上。そして周囲に支えられていることが多い。家事を負担してくれている夫の家族、育児用品を譲ってくれる友人や親せき、助言をくれる先輩ママや出産後も親身になって相談のってくれる産院の皆さん。そして、農閑期を生かして全面的に育児参加してくれている夫に心から感謝！

生後一カ月がたち、ようやく人間らしくなってきた二つの命。阿蘇の大自然に負けないくらい大きな心と丈夫な体を持つように、しっかりと育てていきたい。(おあしす米生産者、NPO九州バイオマスフォーラム理事長)